

「キャンプ砂防2019」を開催

◆ 影山 大輔* ◆

1. はじめに

「キャンプ砂防」は、砂防を専攻する大学生等を対象に体験的に砂防の意義・役割について学ぶ場を提供して、砂防に対する認識を深めてもらうことを目的として、平成8年度より毎年度実施しています。この「キャンプ砂防」という名称は、元国連難民高等弁務官・緒方貞子さんの提唱で始まった難民援助の現場を実際に体験する青年向けの研修プログラムである「キャンプ・サダコ」にちなんで命名されたものです。

「キャンプ砂防」には、平成8年度に開始以来、これまでに2,100名を超える学生が参加しています（図-1）。

2. 「キャンプ砂防2019」の概要

平成8年度の初開催より数えて24回目の開催となる「キャンプ砂防2019」は、大学等の夏季休暇期間中の本年8月上旬から9月上旬にかけて、北海道から鹿児島県まで全国17箇所の直轄砂防関係事務所で実施されています。令和元年度は、すべ

表-1 「キャンプ砂防2019」参加者の学年構成

区分	学年	男性	女性	計
大学	1年	2	1	3
	2年	3	3	6
	3年	31	8	39
	4年	1	2	3
大学院	1年	5	0	5
	2年	0	0	0
計		42	14	56

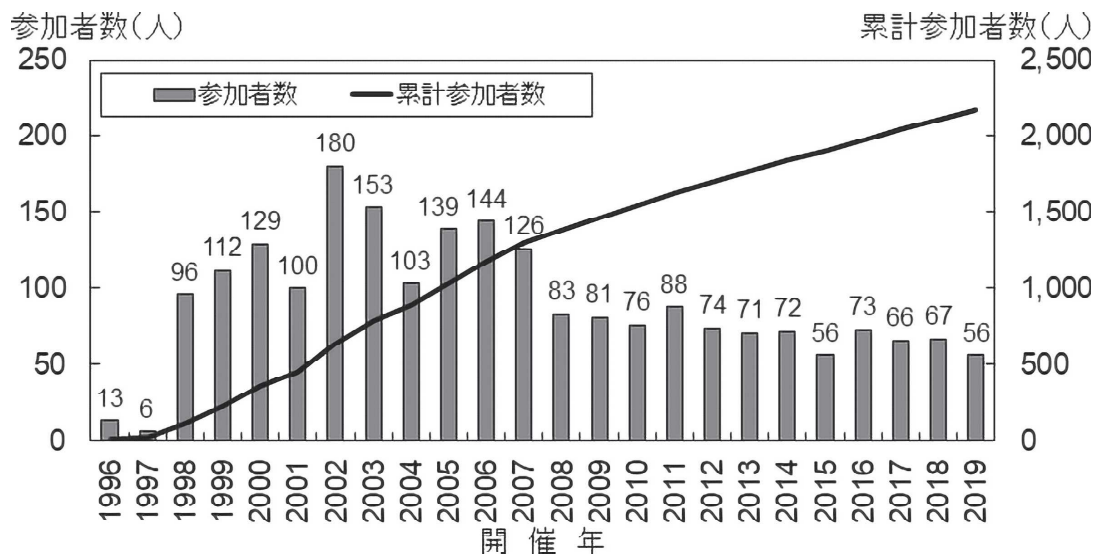


図-1 「キャンプ砂防」参加者数の推移

* Daisuke Kageyama 国土交通省水管理・国土保全局砂防部砂防計画課企画係長

表-1 「キャンプ砂防2019」実施内容

機関	実施事務所等 (所在地)	実施時期		参加 者数	実施内容	
		開始	～ 終了		実施テーマ	実施概要
北海道 開発局	帯広河川事務所 (北海道中川郡幕別町)	9月2日	～ 9月6日	5名	十勝川砂防事業(水系砂防、火山砂防)を見て・聞いて・体験して学ぶ	出水の被害、火山の見学(十勝岳、雌阿寒岳)等、大自然北海道の砂防事業の現場を巡り、体験型学習により災害に対しての備えを学ぶ。
東北 地整	新庄河川事務所 (山形県新庄市)	8月26日	～ 8月30日	3名	キャンプ砂防2019 in 月山～現場体験、地域体験等を通じ『砂防事業と地域の暮らし』を知る～	砂防事業、地すべり事業の現場体験、地域体験(地域住民との交流)等
関東 地整	利根川水系砂防事務所 (群馬県渋川市)	8月19日	～ 8月23日	3名	キャンプ砂防2019 in 利根川「利根川上流域の豊かな自然の中で砂防事業を学ぶ」	利根川上流域で行われている、砂防事業・火山砂防事業(浅間山)・地すべり対策事業を学ぶと共に、それらの事業と山間地域との関係を豊かな自然の中で学ぶ。
	渡良瀬川河川事務所 (栃木県足利市)	8月26日	～ 8月30日	5名	渡良瀬川の歴史と砂防～豊かで安全な地域を目指して～	渡良瀬川の歴史と砂防事業の取り組みについての学習。工事現場体験学習及び崩壊地調査。 足尾地区の緑化対策は、官民が連携し、協力しあいながら取り組んでいる事例の学習。
北陸 地整	松本砂防事務所 (長野県松本市)	8月26日	～ 8月30日	4名	北アルプス東麓の中山間地域の生活と砂防事業を学ぶ	中山間地域での砂防事業がはたす役割を、現地調査や現場体験等を通じて学ぶことにより、砂防事業の意義、今後のあり方について考える。
	湯沢砂防事務所 (新潟県南魚沼郡湯沢町)	8月26日	～ 8月30日	6名	地域に根ざした砂防事業を職員と一緒に本気実務体験	魚沼産コシヒカリを育む自然豊かな中山間地域での砂防事業について、講話(市町村長からの話題提供、中越地震から復興への歩み、国家公務員の責務)、実務体験(業務(設計打合せ、生態系調査)、工事(現場の進捗確認、安全パトロール))、地域交流(意見交換会への同席)を通じて理解を深める。
	神通川水系砂防事務所 (岐阜県飛騨市)	8月19日	～ 8月23日	4名	キャンプ砂防2019 in 奥飛騨奥飛騨の大自然に触れ、山間地での体験学習を通して砂防を学ぶ	奥飛騨の大自然のなか地域産業(観光)と密接に結びついた砂防事業(ハード・ソフト両面)について体験学習する(砂防工事作業体験、施設点検作業体験、自然環境調査体験、地場産業体験等)。
中部 地整	天竜川上流河川事務所 (長野県駒ヶ根市)	8月5日	～ 8月9日	4名	南アルプスと中央アルプスに育まれた南信州の自然に触れ、砂防について学ぶ	事業概要講義、工事現場見学及び体験、砂防・地すべり施設見学、伊那谷地形現地踏査等
	静岡河川事務所 (静岡県静岡市)	8月19日	～ 8月23日	5名	キャンプ砂防2019 in 安倍川・狩野川「砂防事業でまもるもの」	砂防事業管内(安倍川・狩野川)視察、土砂災害の歴史・地域の文化等の学習、工事現場体験。 実施日(8月19日～8月23日の内、8月19日～8月21日)
	沼津河川国道事務所 (静岡県沼津市)					砂防事業管内(安倍川・狩野川)視察、土砂災害の歴史・地域の文化等の学習、工事現場体験。 実施日(8月19日～8月23日の内、8月21日～8月23日)
	越美山系砂防事務所 (岐阜県揖斐郡揖斐川町)	8月19日	～ 8月23日	3名	キャンプ砂防2019 in 越美「揖斐川上流域の砂防を体験しよう」	砂防施設見学、砂防工事現場実習、崩壊地調査、環境調査(魚・鳥類等)、砂防施設点検、地域住民との交流等

機関	実施事務所等 (所在地)	実施時期		参加 者数	実施内容	
		開始	～ 終了		実施テーマ	実施概要
近畿 地整	紀伊山系砂防事務所 (奈良県五條市)	8月19日	～ 8月23日	5名	紀伊山系における砂防事業 の体験学習	<ul style="list-style-type: none"> ・河道閉塞・深層崩壊・土石流対策の工事 現場見学および作業体験 ・大規模土砂災害対策研究機構（大規模土 砂災害対策技術センター）の調査や研究 に関する体験学習 ・砂防堰堤の計画設計演習 ・自治体との意見交換
九州 地整	宮崎河川国道事務所 (宮崎県宮崎市)	8月26日	～ 8月30日	4名	霧島山系の砂防事業につい て	新燃岳噴火後の対策について、現場見学や 地元の体験談を聞くことで、火山噴火対応 の砂防事業を学ぶ。
	大隅河川国道事務所 (鹿児島県肝属郡肝付町)				火山との共生をめざして	桜島の火山活動の現状、砂防工事における 土石流及び噴火災害に対する安全対策、 NPO 法人の活動を通じて桜島との共生等 について、講演及び工事現場の体験を通じ て桜島の火山砂防事業を知ってもらう。
	雲仙復興事務所 (長崎県島原市)	8月26日	～ 8月30日	5名	雲仙普賢岳災害の原点にも どり火山との共生を考える	砂防事業現場・災害遺構見学、無人化施工 操作体験、噴火災害と復興について（講 義）、ジオツアー、地域との交流等
	熊本復興事務所 (熊本県阿蘇郡南阿蘇村)				阿蘇の復興事業とカルデラ の土砂対策について	事業概要説明、パネル説明、現場視察。
川辺川ダム砂防事務所 (熊本県球磨郡相良村)	川辺川の砂防と現場体験学 習				事業概要説明、砂防現場見学・施工管理体 験、最新型レーザー距離計を用いた土砂災害 時の緊急調査訓練、住民談話等	

での直轄砂防関係事務所において予定どおり開催
することができ、全国の大学1年生から大学院1
年生までの学生56名（男性42名、女性14名）が参
加しました（図-2）。

各事務所においては、各地域の特色を反映させ
た独自のテーマを設定しており、砂防工事・調査
の現場実習や砂防に関する知識の習得のほか、参
加学生に砂防と地域のつながりを理解してもらう
ために中山間地域の自然・文化の学習、地場産業
の作業体験、地域の方々との意見交換や災害体験

談を聴く場を設けるなど、幅広いカリキュラムで
実施しました（表-1）。

3. 「キャンプ砂防2019」の実施状況

各事務所における「キャンプ砂防2019」の実施
状況を示します（写真-1～写真-10）。

様々な現場において施工、調査、維持管理等の
実作業を学ぶ実習、過去に災害を経験した地元住
民の方からの災害体験講話や地場産業の作業体験
等、多彩な実習が行われました。



写真-1 UAVを用いた測量演習
(帯広河川事務所)



写真-2 無人化施工操作体験
(利根川水系砂防事務所)



写真-3 スランプ試験の体験
(渡良瀬川河川事務所)



写真-4 京都大学防災研究所での講義(神通川水系砂防事務所)



写真-5 透過型砂防堰堤工事現場見学(天竜川上流河川事務所)



写真-6 若手技術者意見交換会(紀伊山系砂防事務所)



写真-7 桜島の砂防事業に関する講義(大隅河川国道事務所)



写真-8 地域特産のそば打ち体験(新庄河川事務所)



写真-9 成果報告会(湯沢砂防事務所)

また、「キャンプ砂防2019」の終了時に、参加した学生へアンケート調査を実施しました(図-3~図-7)。

応募前に「キャンプ砂防」を知っていたのは参加学生の5割程度、砂防事業の理解度は5割程度と、学生に対してなお一層、砂防事業及びキャンプ砂防について知ってもらう取り組みが必要だと感じさせられる結果となりました(図-3、図-4)。

参加動機としては、「生の砂防の現場を見たい」が約6割を占めており、昨年度より1ポイント上昇したことを踏まえれば、土砂災害への関心はもちろん、「砂防」への関心が高まっていると思われます。(図-5)。

希望事務所を選ぶ際、重視した点については、「場所の魅力」や「カリキュラムの内容」といった積極的な観点が約6割を占めており、多くの学生がきちんとカリキュラムやそれぞれの直轄砂防事業について勉強し、その上で希望事務所を選んでいることが分かりました(図-6)。

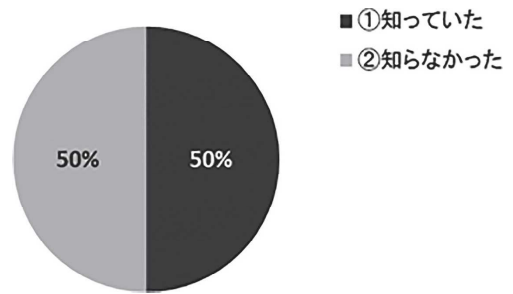


図-3 キャンプ砂防を知っていたか

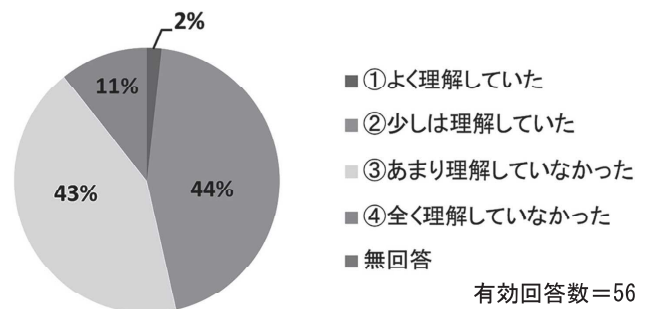


図-4 参加するまでの砂防事業に対する理解度

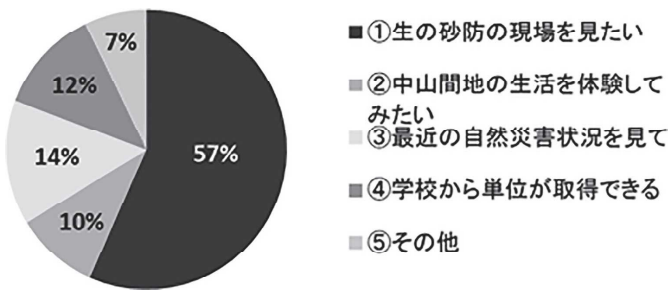


図-5 なぜ参加しようと思ったか

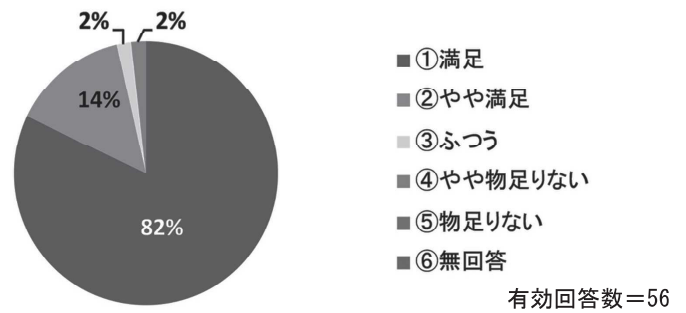


図-7 カリキュラムの内容について

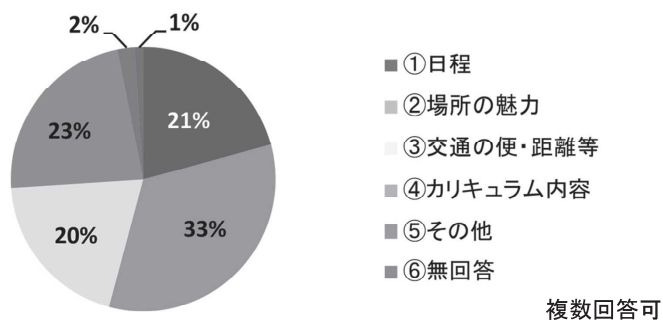


図-6 希望事務所を選ぶ際に重視した点

4. おわりに

令和元年台風第19号による土砂災害の被害は、台風による土砂災害の被害では過去最大クラスと推定されており、現在も各地で復旧・復興活動が続けられています。このような土砂災害の激甚化・頻発化のなかで、これまで以上に砂防事業への社会的関心が高まっています。砂防を志す学生の皆さんにとって、「キャンプ砂防」は大学の授業だけでは学ぶことが出来ない中山間地域での生活体験や砂防事業に関する就業体験など、様々な体験ができる貴重な機会であります。来年度も各地域の特徴を活かしながら充実した内容を企画することにより、砂防事業に関心を抱く多くの学生に「キャンプ砂防」の参加を期待しています。

最後になりましたが、今回で24回目を数えることとなった「キャンプ砂防2019」が無事に開催できたことに、これまでにご協力いただいた各大学の先生方及び関係機関の多くの皆様に深く御礼申し上げますとともに、これからも引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

「キャンプ砂防」のカリキュラムについては、今年度も「満足」と回答した学生が8割程度と非常に満足度が高い結果となりました(図-7)。カリキュラムの良かった点としては、多くの現場に足を運ぶことができたこと、国土交通省職員のみならず砂防に関わる多くの人々と交流できたことなどが挙げられていました。一方、物足りなかった点としては、現場だけでなく事務所での国土交通省の業務も見なかったこと、カリキュラムの時間的な余裕が少なかったことなどが挙げられていました。

来年度の「キャンプ砂防」では、これらの意見を踏まえて、より有意義な内容にするとともに、より多くの学生が参加しやすい開催時期にするよう改善していきたいと思っております。